

多摩丘陵から産出した鰭脚類化石について(第一報)

大 沢 進[※]

On the Occurrence of Penniepedia fossil from TAMA Hill
Susumu OHSAWA

1984年5月、7月に川崎市多摩区の生田緑地から相ついで、脊椎動物化石が発見された。筆者は、川崎市青少年科学館の援助を受けて、この化石の発掘、研究の機会を得たので、その概要を以下に報告する。

1. 産出地点の地質

5月に発見された鰭脚類化石の産出地点は、私鉄・小田急線向ヶ丘遊園駅の南500m、多摩区枳形6丁目、登戸病院下の道路わきの崖からである。7月に発見された化石は、同区東生田2丁目、空き地の小さな崖からである。両地点の距離は、直線にして、約500mほどである(図1)。ここでは、枳形山6丁目の化石を枳形標本、東生田2丁目の化石を東生田標本としておく。多摩丘陵の

この付近は、生田緑地公園として、枳形山を中心に保存されている。その周辺部の民有地から今回の化石の発見があった。丘陵の基盤は、上総層群からなり、付近には飯室層が分布している。

枳形標本を産出した枳形6丁目の地質は、上総層群の飯室層が露出している。露頭の中位に10~15cmほどの灰白色のタフを挟み、

このタフは、第一登戸タフとされる(図2)(岡ら1984)。化石は、登戸病院東の第1登戸タフの下1.2m~1.5mの層準から産出し、厚さ30~50cm、幅2.5mほどの範囲内に散点的にみとめられ、青灰色シルトないし砂質シルト中に含まれていた。登戸タフの上部には黄褐色の砂層が認められる。

東生田標本の産出地点は、飯室層の砂質泥岩が露出し、炭化物をまばらに含んでいる。この中から化石を産し、枳形6丁目の層準とほぼ同じと思われるが、現在調査中である。

2 脚類化石

2地点から産出した化石は以下の通りである。

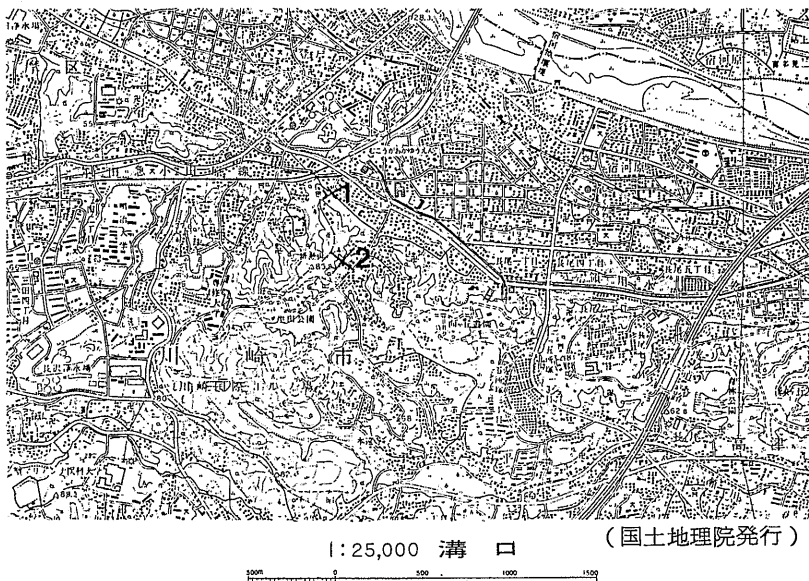


図1 産出地点位置

※ 和光高校教諭 60年度調査委託

杵形標本

- 発見者 野口昭三教諭と矢野賢二、中村洋一郎君ら8名(中野島小学校)
- 土地所有者 吉沢明夫氏
- 産出部位 肋骨数本、歯、頭骨の一部?

東生田標本

- 発見者 斉藤雄司君(杵形中学校)
- 土地所有者 馬島靖忠氏
- 産出部位 肋骨数本、肩甲骨、脊椎骨、上腕骨、大腿骨、脛骨、寛骨

杵形標本については、ブロックで採取し、まだクリーニングが未了のため詳細不明。東生田標本は、保存が良好で、クリーニング、補強の作業中である。

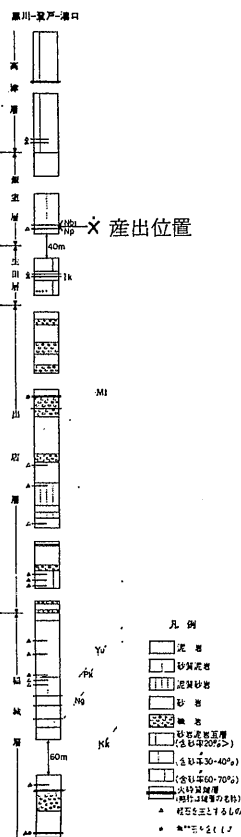
採取された化石については、これから保存作業を実施し、種類を決定する予定である。

3. まとめ

- (1) 鰭脚類の化石が、川崎市多摩区杵形山、東生田の2地点から発見された。

- (2) 化石は上総層群飯室層から産出し、杵形標本は、第1登戸タフの直下の層準である。

- (3) 杵形標本は、肋骨、歯、頭骨の一部。東生田標本は、肩甲骨、上腕骨、大腿骨、脛骨、寛骨、肋骨、脊椎骨であり、種類については、現在検討中である。



謝 辞

化石の発掘の際に協力していただいた青少年科学館の増渕和夫氏、調査研究について、有益な助言をしていただいた都留文科大学講師正岡栄治氏、横浜国立大学院生小泉明裕氏に感謝する。また、各々の化石の発見者、所有者の方々にはたいへんお世話をいただいた。これらの方々に深くお礼申しあげる。

引用文献

- 岡重文、菊地隆男、桂島茂(1984)
東京西南部地域の地質 地質調査所

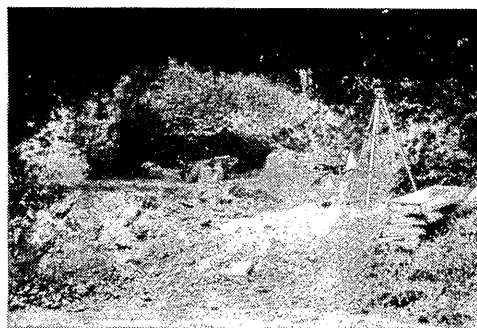


写真1 東生田標本産出地点



写真2 同上産出状況



写真3 同上一部拡大